





丁ささるやとお候
 多心福をしくさすわをもろぬ心印
 是の信濃玉の位人安田此店用友
 治書や子ほくの母も書れ友
 治の同玉の位人安田の秋長よ
 あななく言き信ひ後ハ多うと
 一後類も書れと子あり転むころ

女子身
 浪乃字
 ヨク

ぎを松子乃死若独うし置母と
 敵の可級カクの忌イミうら松子おを
 誘トモナひ立出れ
 ぬ様を竹濃浴ゲムや上ウツキヤ
 夢ユメつりつぐ名所を母に在里れ
 海ウミの松マツ立タテまよふなれ松マツのお
 さむ成ナリ松マツ福フクの床トコ乃ノうら守モリ山ヤマ

上書
今更に行儀も志すぬいひ分りなく
三世の契り此後と親む情も是
あまや実事せんあはれおれおれ
おまある一回浄入有て浄体
なま教せん 御坊さまはま
雅うご様と思ふらん 是れは
乃國れ信人等月之行集めくゆ

板垣の信人安田の庄司友治とトス者
を果ぐるもりき生客とせしむる也
より廿十二年間社京侍受より
身は縁意あり申すありしつゝ
出城の御教書を御坊様より
その御事今も國信流し下向侍
是れ同出の御守山の宿より

作今おの此宿よこまらうまを
ぐるう作う有 所前ある今
夜に宿よこまらうまを致し
よまらうま細の有同基う名を
るまら 畏て人らうまに
渡りゆる 渡りゆる 是に
流の必し所下向の所方ある

ト出まき入 びなるの板所名字を
行と戸人らうまを 異に信
濃の國よこまらうまを
殿と名戸と名を 貴
からる人此方出入る び
び方所通うま 言語道断の
神教トてる人の必し同

河子息宛君殿此屋よさる御下への
愛よ宛より成所親の歌に月が
海うてまぢり旅やうて出せよ
おちとぬるやううう不思議城
みじん今おけ愛よ月う思ふ
何月と月う 物田あうう
先きこもつて

今月こもつて月が此屋よ海り
とん見の天のあうお前と
がるもほほ今おの中に出本
習たつてをさるうすうあう
赤心安く思ふされ久思葉
はうら事じん今おは宿よま
し作おめらうてせめく行の若

さうらひのまに夜よまをたれ枝よすけし
花若ぬの清手をひりきききき
がらう乃振舞うく一戸が(虫
久集阪者酒をもち女作べく文
行よてをく久新鶴ひあましと尸の
つること清うるひ久花若ぬの屋つ
まをを御うらあううもれあう

伏集ハ柳子舞をまむひ其よ
きれよ返付て本堂をさつて
せとるるすれあうく女とも
かくも能様よもあうひて給分
久女行るも集う出候き久
娘ヨクやあをさる事此叶よると首
乃姿よ出立く子あうたぬ業業

女
 氏乃為 作乃細杖洗きり
 青 彼蟬ぬれ衣 ながりたる色
 高 道乃道れ身 米白くも
 の身れ上り色 白くも
 海うき身乃業 ちがら音自乃まの
 らぬるい ちりも 糞人よく
 なるよ ちりも 糞人よく
 返りし略ス

山屋乃亭 主はく 帳目出 新
 下向 下人 同心 礼の 為子 酒を おき
 てし 集りて 人 怒る 身 糞 心 申入
 心 ちり ぬれ 衣 下 ながり たる 色
 山下 向 目 出 新 杖 洗 き
 せし 集りて 人 怒る 身 糞 心 申入
 丁 帳 出 方 新 杖 洗 き 又 是 体

途^{ヒト}の^{クダ}から^{ヒト}あつて^{ヒト}旅^{ヒト}う^{ヒト}は^{ヒト}し^{ヒト}
是^{ヒト}は^{ヒト}山^{ヒト}宿^{ヒト}の^{ヒト}あつて^{ヒト}せ^{ヒト}あ^{ヒト}ん^{ヒト}か^{ヒト}板^{ヒト}
乃^{ヒト}所^{ヒト}旅^{ヒト}人^{ヒト}の^{ヒト}口^{ヒト}舌^{ヒト}乃^{ヒト}時^{ヒト}の^{ヒト}程^{ヒト}あ^{ヒト}て^{ヒト}流^{ヒト}
此^{ヒト}あ^{ヒト}ど^{ヒト}の^{ヒト}戸^{ヒト}の^{ヒト}所^{ヒト}前^{ヒト}に^{ヒト}く^{ヒト}ら^{ヒト}も^{ヒト}は^{ヒト}う^{ヒト}
い^{ヒト}ら^{ヒト}せ^{ヒト}ら^{ヒト}く^{ヒト}日^{ヒト}本^{ヒト}一^{ヒト}乃^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ん^{ヒト}
か^{ヒト}そ^{ヒト}の^{ヒト}上^{ヒト}よ^{ヒト}も^{ヒト}ら^{ヒト}う^{ヒト}て^{ヒト}旅^{ヒト}う^{ヒト}ま^{ヒト}中^{ヒト}
上^{ヒト}旅^{ヒト}行^{ヒト}ひ^{ヒト}ぞ^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}ひ^{ヒト}げ^{ヒト}宿^{ヒト}よ^{ヒト}

あ^{ヒト}の^{ヒト}田^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}ん^{ヒト}ら^{ヒト}あ^{ヒト}す^{ヒト}
面^{ヒト}の^{ヒト}い^{ヒト}し^{ヒト}よ^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}久^{ヒト}
此^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}は^{ヒト}女^{ヒト}
人^{ヒト}達^{ヒト}御^{ヒト}前^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}あ^{ヒト}
い^{ヒト}し^{ヒト}する^{ヒト}あ^{ヒト}を^{ヒト}一^{ヒト}女^{ヒト}一^{ヒト}津^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}久^{ヒト}
一^{ヒト}万^{ヒト}箱^{ヒト}五^{ヒト}が^{ヒト}親^{ヒト}乃^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}た^{ヒト}る^{ヒト}
可^{ヒト}を^{ヒト}宿^{ヒト}ひ^{ヒト}く^{ヒト}一^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}の^{ヒト}あ^{ヒト}ら^{ヒト}あ^{ヒト}

ぬちりあへん ^{ナニシト} 女 ^ヲ を ^ト ぞ ^ヲ 是 ^ヲ 女 ^ト
 ちよ ^ヲ 謠 ^ヲ を ^ト 可 ^ト ら ^ト 仕 ^ト 入 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 親 ^ノ 歎 ^ヲ 付 ^シ 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト
 ちよ ^ヲ 謠 ^ヲ を ^ト 可 ^ト ら ^ト 仕 ^ト 入 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 なる ^ト と ^ト ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 ちよ ^ヲ 謠 ^ヲ を ^ト 可 ^ト ら ^ト 仕 ^ト 入 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 ぬち ^ヲ ら ^ト 可 ^ト ら ^ト 仕 ^ト 入 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち

^多 ^女 夫 ^ヲ ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 諸 ^ノ 鳥 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 九 ^ノ 虎 ^ト を ^ト 可 ^ト ら ^ト 仕 ^ト 入 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 乃 ^ノ 三 ^ト 郎 ^ト が ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 人 ^ト 若 ^ト 有 ^ト 者 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 と ^ト よ ^ト 父 ^ト を ^ト 可 ^ト ら ^ト 仕 ^ト 入 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち
 ぬ ^ト ち ^ト 目 ^ト を ^ト 可 ^ト ら ^ト 仕 ^ト 入 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち ^ヲ ぞ ^ト 女 ^ト 何 ^ト の ^ト 音 ^ト 一 ^ト 万 ^ト 箱 ^ト 玉 ^ト ち

くつとまあり心も父の敵を
るもやと思日乃笑不出るを笑
氣よのあけいせある時おと
持佛堂よしありて宛乃一乃香
と董花を伝へ今をそれた
箱王の牛ををつくと海より
つに兄をせおをせなる名をそ
種

敵と方と尸なる敵をいひも繩を
もち神おをあらそたせ終る
くれのきとやうては首を打落
まひとせの兄乃一乃息を
妻のあげかやいふ麻子を佛を
と平のてを及とらふを
か相の佛をまら海をかぬひる

刀をさるにさくさくもあはれ
敵を討て給へや 討めあは
討めよ 普く行ひて討てり
作ぞ 用心の何れぞあはれ
作をさる者うい討てり
作よ 子細を辨ぬるは程よ
さく作け者ろくをさる後

よき作はあはれ者うい討てり
作をさる者うい討てり
日本にありてはさくさくす
さくさくはあはれ者うい討てり
あはれはあはれ者うい討てり
あはれはあはれ者うい討てり
あはれはあはれ者うい討てり
あはれはあはれ者うい討てり



信
良
五

